

# 本覚寺々報

## ごあいさつ

住職 波多野 真公

第37号  
一発行日  
令和8年2月5日



## 先々代坊守十七回忌 厳修

毎年恒例の除夜の鐘の音が去年も大晦日に響き渡りました。除夜の鐘は一般的には百八つ撞くとされていますが、限り撞き続けます。仏教では「人間の煩惱の数は百八つ」と言いますが、百八つくらいでは済まないような気がします。そんなことを言っていたら永久に止められません。なぜ百八なのかという数字にも諸説あります

が、そもそも「鐘をつきながら一つずつ煩惱を消していく」なんてことが可能でしょうか。私は小さい頃から毎年欠かさず撞いてますが、煩惱が減っているとは思えません。

蓮如上人は、「仏法のことは、自分の心にまかせておくのではなく、心がけて努めなければならぬ。

愚かな自分の心にまかせていては駄目である。自分の心にまかせず、心がけて努めるのは阿弥陀仏のはたらきによるのである。煩惱が支配するわが心にまかせず、『たしなむ』身となるのは、他力のもよおしである」とお示しになりました。「たしなむ」にも、いろいろな意味があるようですが、「常に心がける」がしつくりくるように思います。

また、鐘を撞いた後引き続きの除夜会でお勤めいたします正信偈のなかに

### 「不斷煩惱得涅槃」

煩惱を断ち切らないまま淨土でさとりを得る

とありますように私が煩惱を断つのではなく、仏力・他力が絶つてくださるのでです。愚かな私こそが救いの目当てであったと気づかされながら、本年も共にお念仏申させていただきます。合掌



今年の永代經法要では、開闢法要と併せて先代住職（義淳院釋昭方）の十三回忌、並びに先々代坊守（慧眞院釋尼妙香）の十七回忌を親類ご法中とともに執り行いました。お二人は姫路の本徳寺より本覚寺へ入寺されたご姉弟になります。あらためてお一人とのエピソードを語るには私よりも寺族や先輩法務員にお聞きする方が良いのでしょうか、

個人的には先代との思い出は福井小浜のドライブでした。本願寺の宗会議員をお務めされていた関係で、車で随行することになりました。お裏方から車の運転は道場さんにお願いしますねと言われたのですが、時すでに遅し、親御前にハンドルを握られてしまいました。走行距離二十万キロを超えるクラウンで、わしはまだまだ現役だと言わんばかりのドライビングテクニックは得も言われぬ迫力がありました。

また法要の布教使には島根、西楽寺の菅原昭生師が、とても印象に残る聞きやすい内容のお話をしてくれました。あるお家へお参りに伺った際に法語カレンダーをお渡しすると、若夫婦のご主人が「この間の永代經のお話で、この言葉を聞きました」と仰ったのです。「これからが、これまでを決める」という時間の流れがあるのだから、「これまでがこ



れからを決める」と言われるかもしれませんが、そうではなく、これからの生き方がこれまでの意味を決める。つまりこれまでの人生で辛かったことも、思い通りにならなかつたことも全て無駄ではないということです。そして死んだらしまいではなく、これからが定まるからこそ、これまでの人生そのものに意味があつたのだと見出されるのです。このご縁にあらためてお聴聞させていただきました。（道場）

## 念仏奉仕団

福井組合合同参拝

五月二十九、三十日にかけて福井組のご門徒の皆さんと合同で念仏奉仕団に参拝させていただきました。福井組として総勢二十八名、本覚寺から十三名の参加となりました。一日目は御影堂の清掃で、お内陣側から一斉に横一列に並び外陣に向かって畳を拭きあげる様子は圧巻でした。ご門主様とご面接（記念撮影）をして初日は終了。夕食では福井組のご門徒の皆さんと交流を深める楽しいひと時となりました。

二日目は朝六時より御晨朝のお勤め。引き続き帰敬式があり、本覚寺からは八名が受式し、ご門主様より法名をいただきました。また清掃は御影堂裏側の草むしりという普段なかなか立ち入ることの出来ない場所での作業になりました。その後鴻の間でのお抹茶接待や飛雲閣の見学など、国宝に指定された建物で貴重な体験をさせていただきました。

念仏奉仕団は、戦後荒廃した西本願寺を何とかして守っていかなければという思いで門信徒を中心



に行われた清掃活動が始まりとされ、戦後八十年が経った現在も続かれています。清掃には心を落ちつかせ自己を見つめ直す作用があると言われています。念仏奉仕団での清掃は自分の心を見つめ直すだけではなく、本願寺の伝道の場を整えお念仏のみ教えを守っていくことに繋がるのです。（園倉）

念仏奉仕団は二年に一度計画しております。まだ帰敬式を受けられておられない方もこの機会に是非ご参加ください。

## 塚谷総代ご逝去



平成十三年より門

徒総代を務めていただきました、塚谷徹雄さん（98）がご逝去されました。二十余年の長きにわたり最

後まで寺院の護持発展にご尽力くださいました。また村の道場役としても長年その責務を全うされまし

た。有難うございました。合掌

## 納涼会に流しそうめんと落語

今回は納涼会に併せて落語会を開催。きっかけは仏教壯年会の会員さんご要望でした。お笑い芸人から上方落語家に転身した永平寺町出身の笑福亭笑生(しょうき)さんの噺に初めての人もそうでない人もみんな食い入るように聞き入っていました。さすがはプロの落語家さん、その名通り笑いを生んでいましたよ。



ほど大きなものになりたくさんの参 加者で賑わいました。そうめんの他に一口ゼリーやチーズマトも流して変化球。焼き鳥やおにぎり、かき氷にクジ引きなど楽しい夏の思い出になったでしょうか?

昔からお寺は布教伝道の場だけではなく、老若男女問わず誰もが集まる憩いの場としての一面も兼ねています。いつでも気軽に立ち寄り

いただける、地域密着型の開けたお寺づくりを目指しています。それが若い世代へと伝わって、もっとお寺と近くしていただけたら幸いです。またお寺は皆さん

のものでもあります。例えばサークル活動やレッスン会場に場所をお貸しすることもできますし、お経の練習会や健康麻雀などこんなことを

落語会と並行し境内では流しそうめんもスタート。仏教壯年会のご協力で作られた流しそうめん台は庫裡玄関から山門まで届きそうな

## おでらさんがくぶ

(上高地・新穂高)

七月の終わりに、日常の喧騒から離れて避暑地へ羽を伸ばしに行つてきました。天候にも恵まれ、河童橋、明神池、高所恐怖症には拷問のような(そこまでひどくはない)新穂高ロープウェイなど、大自然に囲まれながら美味しい空気をたくさん攝取することができました。私もかつてはサッカー少年でしたが、今はもうすっかりインドア派になつてしましましたので、これを機にたるみきた体をどうにかしようと参加しているのですが、たまに体を動かすぐらいではこの厄介な脂肪はなかなか落ちません。普段の自分を猛省



## 懇親ゴルフコ・ペ

九月中旬、フクイカントリークラブにて懇親ゴルフを行いました。「猛暑のゴルフは危険と隣り合わせ」良いの

晴のなかスタートする事となりました。最高気温が三十四度。暑い、ひつでも暑い。夏の開催は控えなければ…。そんな暑い中でも和氣あいあいと盛り上がりました。プレー後お寺に戻つて表彰式と懇親会。優勝は東古市區小林啓一氏。私は軽い熱中症で懇親会を最後までお付き合いできませんでした。夏猛暑での運動は気を付けましょう。参加者十六名、最高齢は九十歳。ゴルフは世代を超えて、さらには経験や技術や実力にとらわれず、丸一日皆で楽しめる数少ないスポーツです。

これからでも新たに始めようという方、暫く休止していて再開しようか迷っている方、ゴルフは嗜むがコンペには二の足を踏んでおられる方、是非ともお仲間としてお待ちしております。

(宮口)

## 仏教婦人会 第十三回中部・北陸 ブロック大会

仏教婦人会 コーラスに参加して

仏教婦人会会长 齊川 静子

第十三回中部・北陸 仏教婦人  
大会が令和七年六月二十七日に県  
立音楽堂で開催され、岐阜・東海・  
富山・高岡・石川・福井の六教区、  
約一三〇〇人が参加されました。本  
覚寺仏教婦人会として、一般会員  
十四人、コーラス十六人、役員一人、  
合唱席(約一〇〇人)から全体を観  
合計三十一人が参加いたしました。

覚寺仏教婦人会として、一般会員  
十四人、コーラス十六人、役員一人、  
合唱席(約一〇〇人)から全体を観  
合計三十一人が参加いたしました。



丸となり「念佛に生かされる喜びを  
行動へ」の大会スロ  
ーガンと共に学び  
得られた賜物と実  
感しているところで  
ございます。今回の  
大会を通して多く  
学ばせていただき、  
今後の活動に生か  
していきたいと感じ  
ています。

察させていただき感じたことを申し  
上げます。

福井での開催は今回で三度目、前

回の二度目もコーラスとして参加  
させていただきましたが、今回は非

常に会場の盛り上がりをひしひし  
と感じました。そして大会を終えて  
皆様が帰られる時、出口にて合唱で  
お見送りをさせていただきましたが、

「皆様、有難うございました。次回、  
またお会いしましょう」という雰囲  
気を皆様からの反応で強く感じま  
した。この盛り上がりについては、  
役員をはじめ、参加された方々が一

丸となり「念佛に生かされる喜びを  
行動へ」の大会スロ  
ーガンと共に学び  
得られた賜物と実  
感しているところで  
ございます。今回の  
大会を通して多く  
学ばせていただき、  
今後の活動に生か  
していきたいと感じ  
ています。

それで遺された家族が癒されるので  
あればそれも良いんじやないかと納  
得されるかもしれません。しかし、  
それは今生きている私たちのエゴな  
のではないでしょうか。自分と死と  
いう問題を分けて考えてしまってい  
るのです。「くなつていった人やペ  
ットは、私たちに死をもつて真実、

## 僧侶のひとりごつ

皆さんは近しい人の死をどのよ  
うに受け止めますか?亡くなつた  
人はどこでどうしているのでしょうか?  
悔いはなかつたでしょうか?苦  
しんでいないでしょうか?四十九  
日まではお家にいて、それが済むま  
では成仏できないのですか?という  
認識をされている方がまだまだおら  
れるのではないかと思う。またこ  
のような精神状態になると、多くの  
人がスピリチュアルなものにすがっ  
てしまふのかかもしれません。昔、テ  
レビ番組で、亡くなつた人やペット  
のメッセージを受け取れるという能  
力者が出てきて、感動的なエピソー  
ドを語るというものがありました。

真理を伝えてくれているのに、ス  
ピリチュアルなものに惑わされ、大  
切なことに気づけないでいるのです。  
死を受け入れるということは、他人  
事ではなく自分自身の問題として  
受け止めるということなのです。あ  
るお寺の伝道掲示板に「お前も死ぬ  
ぞ」と書かれていたのは有名な話で  
すが、どこにいるの?どうしている  
の?と心配しているあなた。亡くな  
った人は、そんなあなたのことを心  
配しているのです。

## フォトギャラリー



平林 甚一さん(法寺岡)

令和八年 年回法要表

寺だより

※印は地区にゆつてされないところもある

○令和八年の年回法要表です。

氏名・住所・電話番号

## 年回の種類・法名

を必ずお知らせ下さい。

○過去帳・御位牌の法名記入承ります。

[ホームページのご案内](http://hongakuji.gionsyouja.com/)



パソコン用



モバイル用

**寺だより**

遅ればせながら。昨年戦後八十年にあたり西別院で福井空襲にまつわる行事を企画した。色々調べる中で総務省のHPに『空襲の状況』として「B29はまず始めの焼夷弾を西別院付近に投下した」とあった。ご存知の方もおられるが当時本覚寺は西別院の隣にあり空襲で全焼している。その時の話は祖父母からなんとなくは聞かされていた。

空襲が始まり祖父が本堂に向かうと縁に置いてあつた文机の上の書物が熱風で煽られ一瞬で燃え上がつたという。そんな火の海の中どこをどう逃げたものか、祖父母と曾祖母は大阪から疎開していた甥姪を背負い、熱さから逃れるため時に々川の水に浸りながらなんとか逃げ遂せた。翌日焼け跡に戻ると近所に住む弁護士さんが石灯籠にもたれかかるようにして黒焦げで亡くなっていたといふ。

そこにご門徒で川合鷺塚の小林道場さんが心配して探しに来て下

さり一時的にそこに身を寄せた。  
そしてそこに今の東古市で庄屋であつた長谷川さんが探しに来てくださつて一家で三年ほど長谷川家に間借りさせていただくことになる。  
その後ご門徒の皆さんとの協力で現在の場所に建物が造られ、さらに大野の豪農から建物を移築して本堂とした。その際下淨法寺の朝倉道場の先代先々代がご尽力くださつた。また宝物類は轟の川治庄兵衛さん宅他何か所かに疎開させていただいており無事だった。つくづく今この本覚寺があるのはご門徒さんのお陰なのだ。

図書館で資料を調べる中、同じく市内のお寺の坊守さんの手記を二通みつけた。いずれもご門徒さんが探しに来てくれた、世話になつたと感謝の言葉が記されている。そしてご門徒さんにとってもお寺は心の依りどころとして、大切に思つてくださつていたのだろう。

八十年が経ちもう語り継ぐ者もいなくなるであろうこの話をここに記しておく。合掌

## 令和8年 本覚寺行事予定

◆修正会	◇御年頭	◇御正忌	◇門徒大会	◆仏壯・仏婦合同報恩講	◇勝山支坊太子講	◆花蓮の会	◆聖地参拝	◆花まつり	◆降誕会・初参式	◆懇親ゴルフコンペ	◇勝山支坊永代経	◆永代経	◆掛所盆参り	◆清掃奉仕	報恩講前	七月十五、十六日	八月予定	七月十四日	永代経前	六月三十日	六月予定	検討中	検討中	四月上旬予定	三月三十一日	三月上旬予定	二月五日	一月十五日	一月一、二日	一月一日				
◇除夜会	◆勝山支坊報恩講	◇報恩講	◆清掃奉仕	◇納涼法話会																														
十二月三十一日	十月二十一日	十月五、六日	報恩講前	開闢法要	十八時より読經	仏婦	十時より	別途申込		富山・能登予定	保育園・幼稚園・小学校・幼稚園	午前九時より蓮植替え	十時より	追悼法要・そば会	別途案内																十時より	十四時より	十時より	流杯の儀
二十三時四十五分頃	十時より		仏婦																															

お供え

## 感謝録

(敬称略)

帳場その他お手伝い  
佛教壯年会、佛教婦人会  
年末 未政御同行  
厚く御礼申し上げます。  
ありがとうございました。

## 編集後記

私の車はマニュアルですが、マニュアル通りにしか動けない、対応できない人は苦手です。それも個性かと自分に言い聞かせながらも、人との会話や行動には良い意味で遊びが欲しいものです。ほとんど社会経験をせずにこの世界に入った私が言えることではあります。写真や絵、俳句などでも結構せんが、今後ともどうかよろしくお願いします。

(道場)

ここに第三十七号をお届けします。

皆様方の寺報原稿お待ちしております。写真や絵、俳句などでも結構です。

ご奉仕

寄贈 花ビール

齊川 岩崎 富田 竹中 前田 山本 清水 舟木 川治 青木 斎藤 敏昭 保憲 英一 政美 東古市 舟 寄

嘉長 克哉 幸二 哲男 清司 晴勝 克治 黙英 保憲 敏昭 信勝 勇次 光宏

光明寺 河和田 上北野 菅谷 阿難祖 笹尾 大和田 月立 轟春 永江

蓮植替え

佛教壯年会、佛教婦人会

除夜会手伝い 佛教壯年会有志

発行所	浄土真宗本願寺派
和田山	本覚寺